

## 次期総合計画について

(質問) 次期総合計画は、少子化対策、福祉・介護、教育、地方創生、地球温暖化、SDGsと、本市の将来を左右する重要な計画となる。策定方法や運用などを抜本的に見直し、機動力や実効性のある計画とするべきである。地域づくり協議会や子どもたちなど、多様な市民が参画する策定プロセスも大切にしたい。

(答弁) 多様な市民の参画を得て、SDGsとの関係性を明確にし、人口減少を前提とした、社会の変化に柔軟に対応できる機動的で実行力のある計画としていく。

その他の質問 ○次期都市マスタープラン



## 物価高騰から市民生活を守る取り組みについて

(質問) 令和4年度の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、学校・幼稚園・保育園における給食の食材費、光熱費、運搬費、送迎費などで、保護者や業者などに負担を強いることのないよう対応を求める。

(答弁) 2学期以降の献立についても、物価高騰を意識した献立検討を行い、今年度は学校給食費の改定を行わずに、献立の工夫や食材調達の調整により対応していく。また、低所得の子育て世帯に対し生活支援を行うため、特別給付金の準備を進めている。

その他の質問 ○予防とケア



## 市内経済・産業活性化施策について

(質問) 16年前にもものづくり産業支援センターを立ち上げ、ものづくり産業の活性化に取り組んできたが、今日の多くの変革の波が一気に押し寄せてきており、これまでの同センターを土台とし、ブラッシュアップさせ、小売業から飲食業など、幅広い業種を対象とした「鈴鹿市ビジネスサポートセンター」の設立に取り組むべきときでは。

(答弁) 商工会議所や県よろず支援拠点などとの連携を強化しながら、従来のセンターの機能にビジ・サポの相談機能をプラスし、支援体制の機能強化を考えていきたい。

その他の質問 ○本市生活保護行政のあり方



## 災害対応について

(質問) 自宅療養となった新型コロナウイルス感染症の陽性者に係る避難について問う。

(答弁) 自宅療養者に対しては、保健所からの当初の聴き取りの際に、自宅が危険なエリア内にあるかを事前にハザードマップで確認するなど、災害への備えについてお願いをしている。また、台風の接近が想定され、事前の避難が必要な場合には、保健所の調整により、原則として県が確保している宿泊療養施設などに避難することとしている。

その他の質問 ○白江集合保留地の活用



## 場面緘黙症(不安症)

(質問) 話す力があるにも関わらず、学校などの社会的な背景で話せなくなってしまう、場面緘黙症(不安症)の児童に対して、本市ではどのような支援を行っているのか。

(答弁) 通級指導教室の活用、すずかっ子支援ファイルの作成と活用、医療機関などと各学校の連携、教員が児童生徒にとって安心できる存在になり居心地のいい学級を作れるよう支援・指導を行うことなどにより、児童生徒が安心して学校に通えるよう取り組んでいる。

その他の質問 ○救急医療 ○中学校クラブ活動



## 公共施設における公衆トイレの安全性について

(質問) 犯罪加害者がいかに物色し、接触し、逃走するかをシミュレーションして、犯罪が起こりにくい状況をつくる防犯環境設計が必要。市内の公衆トイレの犯罪対策、安全性への考えは。

(答弁) 防犯環境設計は、犯罪が発生しにくい環境をつくるため、人的な防犯活動などのソフト面と併せ、物理的な環境のハード面の整備、強化などを行い、犯罪の起きにくい環境を形成するもの。今後新設などの際には、犯罪が発生しにくい環境を形成するよう努める。

その他の質問 ○漁港施設の安全性  
○本庁舎周辺駐車場

